



やる気 根元

学校教育目標：心豊かでたくましく 心身ともに健やかな鳴鼓っ子の育成

時津町立鳴鼓小学校 学校だより 第 6 号

令和 2 年 9 月 1 日 文責：校長 村井 宏之

今日からフルパワー！



八月二十七日、ちよつと短い夏休みを終え、鳴鼓っ子が元気に、笑顔で帰ってきました。

二十七日間と例年に比べ十日以上も短い夏休みとなりましたが、私は夏休みが

いつもより短かったことは、逆にチャンスなのではないかと考えています。一学期、子供たちはコロナに負けず本当に良く頑張りました。元気に、明るく、そして優しい鳴鼓っ子に育っています。だから、長い夏休みよりも、今年のような短い夏休みの方が、一学期にできるようなったことや身に付けたことを忘れずに、続きでスタートできるのではないかと思うからです。始業式では、子供たちには、「ウォーミングアップは昨日まで。今日からは、鳴鼓っ子も先生たちもフルパワーで頑張ろう。」挨拶、返事、発表、元気が出る学校も、少しずつ元に戻すのではなく、今日から、フルパワーで突き進み、一学期の成長の上に積み上げよう。」と伝えました。

また、一学期のキーワードとして「もう一步」という言葉を子供たちに示しました。一学期、子供たちはそれぞれよく頑張ったと思います。二学期は、その一学期の頑張りの上に積み重ねをしてもらいたいのです。「もう一歩前に」「もう一つ上を」目指して、勉強も運動も、係などの仕事も頑張ってもらいたいと願っています。職員一同、子供たちが「もう一歩前へ」進めるよう、全力で支援していきます。ご協力をお願いいたします。

挨拶について考える

始業式の中で、子供たちに「挨拶」について次のような話をしました。

「挨拶」は、なぜ大切なのでしょう。「挨拶」という字の「挨」には「心を開く」という意味が、「拶」には「相手に近づく」という意味があるそうです。挨拶とは、「私はあなたに心を開いていますよ」「私はあなたに近付きたいと思っていますよ」というメッセージを送ることです。確かに、気持ちのこもったあいさつや元気なあいさつをする人とは仲良くなれるような気がします。あいさつは、人と人の心をつなぐ第一歩です。二学期は、それぞれのあいさつをレベルアップしましょう。鳴鼓っ子の挨拶を本物にしましょう。

私が鳴鼓小に着任して、三年がたち四年目を迎えています。その時から、「声を出せる子供を育てたい」「挨拶、返事ができる子供を育てたい」と願い、ことあるごとに子供たちに、保護者や地域の皆様にその願いを伝え続けてきました。おかげで、この三年間で子供たちの挨拶の声は、以前に比べ聞こえるようになったと感じています。しかし、十分とは言えません。まだ挨拶の声が出ない子供もいますし、限られた場面でなければ挨拶ができない子供たちがたくさんいます。今、挨拶指導の難しさを感じているところです。

子供たちは、待っていればいつか挨拶ができるようになるのでしょうか。挨拶の大切さに自ら気付き、挨拶ができるようになるのでしょうか。このようなことについては、私は未熟な子供たちに任せるのではなく、我々大人が責任をもって、手本となり、自信をもって指導すべきだと考えます。学校だけ、家庭だけの指導では、子供は変わりません。本物にはなりません。挨拶という当たり前のことができる子供に、家庭、地域、学校が本気になって育てましょう。「鉄は熱いうちに打て。冷静にかつ思いを込めて、打て。」

新型コロナウイルス感染症について

七月末に全国で感染者が千人を超え、現在は減少傾向にありますが、近隣市町での感染も発生しており、冷静に状況を見極め、感染防止に努めながら、教育活動を停滞することなく進めていかなければならないと考えています。ホームページに鳴鼓小の「新型コロナウイルス感染症防止に係る対応」を見直し載せています。ご確認ください。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大により、感染者や濃厚接触者に対する差別や偏見が、全国的に問題となっております。これに伴い、新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見の防止に向けて、文部科学大臣から児童生徒、保護者、地域の皆様、学校関係者に対して、メッセージが発表されました。学校では、子供たちに、このメッセージをもとに、差別や偏見の防止について継続的に指導を行っていきます。保護者、地域の皆様におかれましても、文部科学大臣のメッセージを添付しておりますので、お読みいただき、ご協力いただけますようお願いいたします。

九月の主な行事

- 一日(火) 始業式・集団下校
- 四日(金) 避難訓練・PTA評議員会
- 四日(金) ～ 八日(火) 夏休み作品展(玄関ホール)
- 八日(火) 委員会活動
- 十日(木) 授業参観・懇談会(五年生)
- 十日(木) ～ 十一日(金) 修学旅行(六年生)
- 十一日(金) 授業参観・懇談会(一年生)
- 十四日(月) 授業参観・懇談会(三年生)
- 十五日(火) 授業参観・懇談会(四年生)
- 十七日(木) 授業参観・懇談会(六年生)
- 十八日(金) 授業参観・懇談会(二年生)
- 二十一日(月) 敬老の日
- 二十二日(火) 秋分の日
- 二十五日(金) 児童集会
- 二十九日(火) クラブ活動
- 三十日(水) ～ 十月一日(木) 宿泊学習(五年生)



※九月五日(日)に予定していたPTA除草作業は、今年度については中止します。

修学旅行に行ってください

六年生が九月十・十一日に一泊二日で修学旅行に行きます。当初は、福岡、熊本方面を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、「修学旅行を実施すること」を第一に考え、長崎県内の行程に変更しました。一日目はハウステンボスに行き、島原に宿泊します。二日目は、雲仙の仁田峠に登った後、長崎市内の班別自主研修を行います。自分たちが住む地元、長崎の良さを知る、見つめ直す機会となることを期待しています。

宿泊学習に向け準備中

五年生は、九月三十日・十月一日に一泊二日で宿泊学習を行います。諫早青少年自然の家で、様々なグループワークを行うことで、チームワークを学ばせ、友達との絆を深めさせたいと思っています。

※修学旅行・宿泊学習については、ホームページで随時、子供たちの様子をお知らせします。お楽しみに！

八月一日に今崎 奈稚 栄養教諭が、育児休業から復帰しました。これに伴い、代替として頑張ってくれた堺 里絵子 栄養職員が退職となりました。

保護者や地域の皆様へ

学校において、児童生徒等の学びを確保するための取組を進めることができているのは、保護者や地域の皆様に感染症対策の取組に御理解と御協力を賜っているからであり、心より感謝申し上げます。

しかし、このような取組を徹底しても学校や家庭、社会において感染するリスクをゼロにすることはできません。誰もが感染する可能性があります。その上、新型コロナウイルス感染症には未だ解明されていない点があり、ワクチンも開発中であることから、この感染症に対する不安をお持ちの方が多くと思います。

私たちは、この感染症と、この感染症がもたらした社会の変化に対して、現時点での科学的な知見や見解に基づいて、正しく向き合うことが必要です。私からは、保護者や地域の皆様に次の二点をお願いいたします。

第一に、感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さないということです。

誰もが感染する可能性があるのですから、感染した児童生徒等や教職員、学校の対応を責めるのではなく、衛生管理を徹底し、更なる感染を防ぐことが大切です。

そして、自分が差別等を行わないことだけでなく、「感染した個人や学校を特定して非難する」「感染者と同じ職場の人や、医療従事者などの家族が感染しているのではないかと疑い悪口を言う」など身の周りに差別等につながる発言や行動があったときには、それに同調せずに、「そんなことはやめよう」と声をあげていただきたい。人々の優しさはウイルスとの闘いの強い武器になります。

感染を責める雰囲気広がると、医療機関での受診が遅れたり、感染を隠したりすることにもつながりかねず、結局は地域での感染の拡大にもつながり得ます。その点からも差別等を防ぐことは必要なことです。

第二に、学校における感染症対策と教育活動の両立に対する御理解と御協力です。

感染症への対応が長期にわたることが想定される中、学校では、感染症対策を講じつつ学校教育ならではの学びを大事にしながら教育活動を進め、子供たちの健やかな学びを最大限保障するための取組を進めていただいているところです。また、大学についても、感染症対策の徹底と、対面による授業の検討も含めた学修機会の確保の両立をお願いしております。

これからの予測困難な時代を生きていく児童生徒等や学生が、必要となる力を身に付けていくことができるよう、学校の教育活動の継続への御理解と御協力をお願いいたします。

新型コロナウイルスのみならず、感染症へ正しく対応するためには、最新の科学的な知見等を知ることが不可欠です。政府として、分かりやすい広報に努めているところですが、保護者や地域の皆様におかれても科学的な知見等を日々の生活に生かしていただきたいと思います。

令和二年八月
文部科学大臣 萩生田 光一